

葛原運次郎

くずはら・うんじろう

福山誠之館教師、弘前中学校校長、弘前市長

経歴

生: 明治13年(1880年)3月26日、青森県南津軽郡田舎館村大字豊蒔字西森越九十番地生まれ

没: 昭和20年(1945年)12月17日脳溢血にて病没、享年66歳、弘前市常源寺に葬る

明治31年(1898年)	18歳	弘前市東奥義塾卒業
明治31年(1898年)	18歳	青森県東津軽郡油川尋常高等小学校代用教員
明治35年(1902年)7月1日	22歳	仙台第二高等学校第一部文科卒業
明治38年(1902年)7月11日	25歳	東京帝国大学文科大学史学科(西洋史)卒業
明治38年(1905年)9月11日～39年(1906年)3月27日	25～26歳	東京帝国大学講師嘱託
明治38年(1905年)9月	25歳	学術取調べのため清国奉天に遣わされる
明治39年(1906年)8月31日～41年(1908年)3月17日	26～27歳	青森県弘前市立弘前中学校東奥義塾教授嘱託
明治40年(1907年)4月30日	27歳	師範学校、中学校、高等女学校歴史科(無試験)教授免許状
明治41年(1908年)9月1日～大正2年(1913年)8月5日	28～33歳	千葉県私立成田中学校校務主管(実質の校長)兼教諭
大正2年(1913年)8月30日～8年(1919年)9月23日	33～39歳	広島県立福山中学校教諭、教務主管(教頭)
大正5年(1916年)10月10日	36歳	叙従七位
大正7年(1918年)10月10日	38歳	叙正七位
大正8年(1919年)9月23日～11年(1922年)5月	39～42歳	徳島県立脇町中学校校長
大正11年(1922年)5月13日～14年(1925年)	42～44歳	山形県立米沢興譲館中学校校長 (出典3)
大正14年(1925年)3月20日	44歳	秋田県大館中学校校長
大正15年(1926年)3月31日～昭和7年(1932年)3月31日	46～52歳	青森県立弘前中学校校長
昭和3年(1928年)8月15日	48歳	叙従五位
昭和15年(1940年)8月18日～17年(1942年)7月4日	60～62歳	青森県南津軽郡田舎館村村長
昭和17年(1942年)7月5日～20年(1945年)12月17日	62～65歳	弘前市長
—	—	勲六等

生い立ちと学業、業績

誠之館在任<大正2年(1913年)8月30日～大正8年(1919年)9月23日>(在任期間6年1ヵ月)。

前任佐竹元二教頭転出のあとをうけ、大正2年(1913年)8月30日、千葉県私立成田中学校教務主管から本校に着任したのが、葛原教諭であり、この時34才であった。教諭の本籍は青森県南津軽郡田舎館村、仙台第二高等学校から東京大学文科大学史学科を卒業後、弘前中学東奥義塾教師となり、つづいて千葉県成田中学に勤務した。

本校来任後は、教務主管(教頭)職をつとめつつ、修身・歴史・法制経済などを教授した。とくにその修身の授業は、その重厚な話しぷりと、豊富な内容とによって、生徒に深い感銘を与えた。例えば、克己心については、

「わたしのように酒もタバコもやめることのできないものが、克己心の必要なことを諸君に教えることはどうかしている。しかしわたしは、人生に克己心の必要なことを信じているから、あえて繰り返し強調しているのだ。」

など、諄々と生徒に説いたという(サンケイ新聞「先輩後輩」)。

葛原教諭は、大正8年(1919年)9月23日付けで徳島県立脇町中学校校長に任ぜられて本校を去り、さらに弘前中学校長などを歴任した後、推されて弘前市長となった。市長在任中は、「わらじばき市長」として市民の厚い信頼をうけたという。(出典3)

誠之館所蔵品

管理No.	氏名	書名	制作/発行	日付
04963	門下生有志一同代表 土岐勘作	『恩師のみ影』	土岐勘作	昭和21年

出典1:『恩師のみ影』、門下生有志一同代表・土岐勘作著、土岐勘作刊、昭和21年12月17日

出典2:『サンケイ新聞「先輩後輩 誠之館高校 15」』、サンケイ新聞、昭和37年

出典3:『誠之館百三十年史(上巻)』、824頁、福山誠之館同窓会編刊、昭和63年12月1日

出典4:HP「山形県立米沢興譲館高等学校」

2005年4月8日更新:出典●2006年6月23日更新:タイトル●2007年7月18日更新:経歴●2008年1月31日更新:経歴●2008年2月22日更新:経歴(興譲館→興譲館)・本文(興譲館→興譲館)●2008年7月1日更新:経歴・本文・誠之館所蔵品●2009年8月14日更新:経歴・誠之館所蔵品●2013年11月9日更新:経歴●